

ハッチ用救助袋操作方法

有資格者による年2回の定期点検を受けて下さい。
ハッチ付近は、常に避難経路を確保して、ハッチの開閉の妨げになるものは、置かないで下さい。



格納方法



注意

- ハッチの上には、絶対に乗らないこと。
- 非常時以外は、ふたをあけたり、さわらないこと。
- ハッチの上や周囲には、絶対に物を置かないこと。

製造・販売品目

- 各種避難設備
救助袋(垂直式HスコードⅠ型・Ⅱ型、斜降式)
避難器具用ハッチ・防排煙設備等
- 各種繊維製品
制服・作業服・救助服・防火服・防寒衣・天幕類、その他

齋田産業株式会社

本社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-6大宮第2ビル
TEL 03-3291-4141(代) 3292-8586(代) FAX 03-3292-8588
<http://www.saitasangyo.co.jp/>

北海道営業所 〒063-0812 北海道札幌市西区琴似2条7-2-37 大洋ビル
TEL 011-641-4161(代) FAX 011-631-1403

生産工場(小樽) 〒047-0015 北海道小樽市住吉町6-1
北海道第1工場 TEL 0134-32-1414(代) FAX 0134-32-1412

生産工場(旭川) 〒079-8417 北海道旭川市永山7条1丁目4番21号
北海道第2工場 TEL 0166-22-8440(代) FAX 0134-22-8441

組立工場 〒134-0082 東京都江戸川区宇喜田町1238番地
江戸川工場 TEL 03-5658-7273(代) FAX 03-5658-7276

サイサンの 避難器具

ハッチ用救助袋 PAT

認定型式番号
ふV-001-1号



SAITA SANGYO CO.,LTD.

ハッチ用救助袋の構造は、より安心して避難 できるように考慮して作られています

Hi-スコア PAT-P



ハッチ用救助袋の特長

- 構造は、らせん式のゆるやかな「すべり台方式」で、袋の中をまわりながらゆっくり降下します。
- 降下の際、入口部分で腰掛布に座り、姿勢を安定させてから、つかまりベルトを握り、足をそろえて滑り降ります。（写真参照）
- 降下速度は、1秒間に1m程度の速さなので、お年寄りやお子様でもスムーズにすべり降ります。
- 出口部の滑り面（滑降布）は、床に触れておらず、出口部分の底部には、保護マットが設けてあるので、着床衝撃が少なくなっています。
- 下階へ避難者が降りる際、外部が見えませんが、高さによる怖さはありません。
- 救助袋を降ろす際、風が強い場合でも、袋の底部におもり（砂袋）が内蔵されていますので、風による影響が少なくなっています。
- 使用している生地は、特注した丈夫なポリエステル製で、むれ・水ぬれ・腐食等に強く、耐候性に優れています。

腰掛布について

救助袋を降ろして、ハッチの上から腰掛布を見た状態（取付状態）



救助袋の腰掛布に座った状態

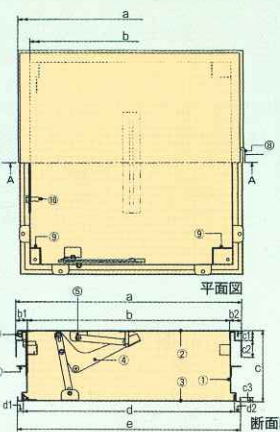


救助袋の仕様

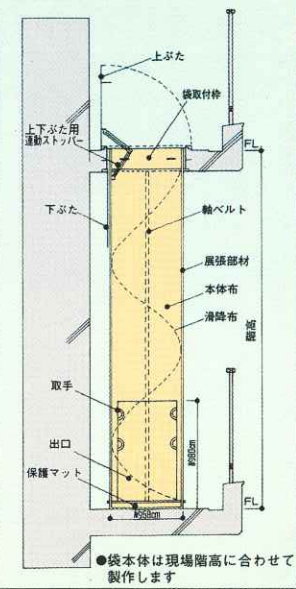
名称	袋長	適応階高	厚さ(H)
2.5型		2,300≦階高<2,800	210
3.0型		2,800≦階高<3,300	217
3.5型		3,300≦階高<3,800	
4.0型		3,800≦階高<4,300	240
4.5型		4,300≦階高<4,800	247
5.0型		4,800≦階高<5,300	270
5.5型		5,300≦階高<5,800	277
6.0型		5,800≦階高<6,300	300
6.5型		6,300≦階高<6,800	
7.0型		6,800≦階高<7,300	
7.5型		7,300≦階高<7,800	330
8.0型		7,800≦階高<8,300	
8.5型		8,300≦階高<8,800	
9.0型		8,800≦階高<9,300	360
9.5型		9,300≦階高<9,800	

※既存改修用ハッチについてはご相談下さい。
※救助袋は階高に合わせて製作致します。

避難器具用ハッチ標準図 (救助袋・はしご兼用型)



救助袋取付図



標準避難器具用ハッチ各部の名称

番号	名称	個数
①	本	体 1
②	上	ぶ た 1
③	下	ぶ た 1
④	上・下ぶた用連動ストッパー	2
⑤	上ぶた用ブラケット	2
⑥	上ぶたちょう番	2
⑦	ア	ン カ ー 8
⑧	取	手 1
⑨	袋 取 付 枠 受 金 具	4
⑩	は し ご 取 付 ボ ル ト	2

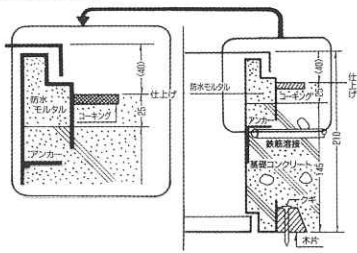
	H=217タイプ	H=210タイプ
a	640	670
b	600	600
b1	20	35
b2	20	35
c	217	210
c1	15	29
c2	50	50
c3	10	13
d	592	627
d1	24	18
d2	24	18
e	640	663

- 本体は全て特定防火扉1号製作仕様によります。
- 枠本体は全てステンレス(SUS304)材を使用

施工方法

※予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承下さい。

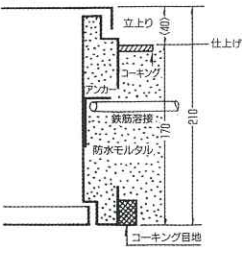
同時打込図



同時打込みの手順 コンクリート打ち込みの前の設置方法。

- 1 本体をビニールで養生し、スラブ型枠の上に防火対象物から100mm程度離れた位置の固定鉄筋に溶接します。
- 2 開口部は下蓋が正しく開閉するように固定します。
- 3 降下口は直下口と相互に同一垂直にならないようにします。（消防法施工規則27条）
- 4 スラブに基礎コンクリートを（120mm～145mm）流しこみます。
- 5 モルタルコンクリート及び防水モルタルを塗り仕上げます。（仕上げ面は上蓋より40mm程度下で仕上げます。）
- 6 救助袋の本体は、袋取付枠を受け金具にはめこみます。
- 7 はしごの場合は、はしご取り付けボルトにはしごをセットし、ナットで締めつけます。

後付打込図



後付打込みの手順 コンクリート打ち込みの前の設置方法。

- 1 本体の枠より少し大きめの枠（コテが入る程度）をあけておきます。
- 2 本体にある8本のアンカー（各片2個）を鉄筋に溶接します。
- 3 モルタル防水を塗り仕上げます。目地コーキングをします。（仕上げ面は上蓋より40mm程度下で仕上げます。）
- 4 救助袋の本体は、袋取付枠を受け金具にはめこみます。
- 5 はしごの場合は、はしご取り付けボルトにはしごをセットし、ナットで締めつけます。

施工方法注意

尚、施工方法等は各地方自治体により異なります。地元消防署の予防課に必ずご相談下さい。

避難器具を設置する場合の注意事項

- 消防用設備等着工届出書
- 消防用設備等設置届出書
- 避難器具試験結果報告書

甲種5種消防設備士の免許所有者が届け出る義務があります。地元の消防署及び防災業者とよく打合せて必ず提出して下さい。
■設置後年2回定期点検を受けて下さい。